



肝ぞう通信

2023年度 第3号《自己免疫性肝炎について Q & A》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。

当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：

平日 9:00～15:00

土曜日 9:00～12:00

(第2・4土曜日除く)

豆知識

自己免疫性肝炎は比較的まれな病気ですが、肝機能障害の原因として重要な疾患です。早期診断、早期治療が大切です。

次回号

テーマ：

日常生活：運動について

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

自己免疫性肝炎とはどのような病気ですか？

自己免疫性肝炎は、慢性に経過する肝炎で、肝細胞が障害されます。発病するには自己免疫の異常が関係していると考えられています。小児に発症することもあります。血液検査では、肝細胞の障害を表すAST・ALTの上昇、免疫関連として抗核抗体の陽性・IgGの上昇が特徴的です。中年以降の女性に好発することも特徴です。ステロイド薬などで治療をきちんと行えばこの病気で命を落とすことはほとんどありませんが、適切な治療を受けなかったり、再燃を繰り返したりすると肝硬変や肝不全へと進行することもあります。最近の調査により、急性肝炎として発症する自己免疫性肝炎の存在が明らかとなっております。自己免疫性肝炎は、英語ではAutoimmune Hepatitisと言います、AIHと略して使われることがあります。

どのくらいの患者さんがいますか？

最近の疫学調査では、わが国の推定患者数は30,330人、男女比が1:4.3と報告されています。以前の調査と比較すると、患者数と男性患者の比率が増加してきています。